

10~15万人首切り^{の突破}「60・3」を阻止するぞ

日刊 動労千葉

85. 2. 15

No. 1864

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五六・（公衆）〇四七二二二七二〇七

「60・3」実力決起するために

No.1

国鉄当局は一月十日、「経営改革のための基本方針」なる再建案を提出し、この中で「65年度までに十八万八千人体制」を実現する計画を明らかにした。すなわち、今後5年の間に十二万四千五百人という、実に国鉄労働者の三人に一人を合理化することである。こうした攻撃の突破口が「60・3」に他ならない。われわれは、十十五万人首切り「分割・民営化」
|| 国鉄労働運動の解体を許すか否かをかけた決戦として「60・3」を闘わなければならない。いまこそ国鉄労働者の怒りを爆発させ、実力決起をかちとろう。

反合闘争の放棄は「首切り」への道

一九八〇年十二月、反動マスコミの「ヤミ・カラ」キャンペーンをもって開始された政府・自民党、臨調、国鉄当局による国鉄労働者攻撃は、あたかも国鉄「赤字」が労働者の責任であるかのようになっている。合理化、権利剥奪、労働強化等、ありとあらゆる攻撃をもって労働者に犠牲をおしつけてきた。とりわけ八一年七月に臨調が「分割・民営化」と「20万人台体制」を答申するや、当局は一気に新期採用の停止や人減らし合理化を強行してきた。「59・2」においては、「分割・民営化」の恫喝に屈した労働組合指導部に助けられ、二万八千九百人の合理化を提案したにもかかわらず、終つてみれば四万三千五百人の「実績」をあげることができたのである。

この「59・2」の裏切りにより全国で二万四千五百人という大量の「過員」が発生し、当局は、八四年六月に首切り「三本柱」をはじめ、「通勤対策」「踏切監視」「キオスク」等々の「余剰人員対策」なるものを提案し強制してきたのだ。

「過員」|| 首切り攻撃を労働者の実力でうちくどころ

当局は一月十日、「経営改革のための基本方針」を発表し、七月に本答申される再建監理委員会の「分割・民営化」方針に沿った、合理化・要員削減・地交線切り捨て等々の方針を明らかにした。特に「65年十八万八千人体制」を打ち出し、今後五年間に六回の大合理化の実施により、十二万四千五百人を削減するとしている。当局の合理化計画は次のとおりである。

60・3ダイ改 二五〇〇〇人 要員削減
61年度 三〇五〇〇人

62年度	二八〇〇〇人 要員削減
63	一〇〇〇〇人
64	一〇〇〇〇人
65	二一〇〇〇人
合計	124,500人 削減

実際に、国鉄労働者の三人に一人、十二万四千五百人の合理化を強行し、生み出した「過員」を「余剰人員対策」と称して職場から追い出し、果ては首切りを策動しているのだ。
当局は「方策」の中で、「余剰人員数は65年度六万七千人」と予測したうえで、「余剰人員対策」として「三本柱の推進や販売活動の強化をはじめ、さらに具体案を作り実施する」としている。
「60・3」が提案通り実施されると、千葉局運転関係で四〇〇人を超える「過員」が生まれる。当局は「キオスク」「車検工場」「営業への転勤」「要員センター」等の「余剰人員対策」攻撃を強めてくることは明らかだ。
こうした攻撃を許さぬために「60・3」粉碎にむけ猛然と決起しなければならない。
(以下つづく)

2・16 労働学校

(第11回講座)に集まろう

テーマ (最終的に確定しました)

「日本資本主義の歴史的特質」

●日本資本主義の成立過程の歴史的特徴、構造的特徴をとらえることにより、その帝国主義的侵略性をつかみとる。侵略戦争―敗戦―復興―高度成長―そして今日突入している体制危機の問題を解明する。

講師・東京大学教授 田中 学 氏
2月16日(土)15時~17時、動力車会館